

8. 早生樹（センダン）

P3でも説明しましたが、広葉樹を建築材や家具材に利用するには通常50年以上の保育期間が必要となります。このため、20～30年で用材として利用が可能な早生樹が注目されています。従来樹種よりも短伐期で収入が望めますし、成長が速いため、炭素の固定速度も速く、伐採後も家具などに利用されれば、炭素の貯蔵先として地球環境に優しい素材であるとも言えます。センダンは、20年前後と短伐期で用材としての利用が可能な早生樹で、九州を中心に活用されています。奈良県においては積極的な植栽や利用はまだされておりませんが、今後も注目が集まると考えられますので、ここではセンダンについて紹介します⁸⁾。

センダン（センダン科）

分 布 等	本州（伊豆半島以西）、四国、九州、沖縄に自生。適地は太平洋側の標高おおよそ500m未満の場所。
形 態	落葉高木で樹高30m、胸高直径1mに達する。
材 色	辺材は黄白色で狭い、心材は淡黄褐色。
材の特徴	年輪は明瞭で、肌目は粗い。強さは中庸。割裂し易い材。加工性は良い。
用 途	建築材（板材、内部造作材、腰羽目）、家具（箆笥の前板、椅子、テーブル等）、器具（箱、指物、運動具、下駄等）、楽器（琵琶の胴）等
利用状況	ケヤキ、キリの模擬材に用いられる。木目を活かし、家具などの用途がある。
そ の 他	樹皮は根皮とともに駆虫薬となる。葉は肥料、殺虫剤、薬用。外果皮は薬用、種子は念珠用になる。

センダンは元々、主に九州などで自生しており、昔から魔除けの木として親しまれ、仏像などの仏具として利用されてきました。

色味は白っぽく、木目は美しく（年輪幅の広い方が好まれています）、適度に堅く洋風の家具に向くことから、近年では建築用材や家具として利用されています。

福岡県の大川市などでは、地域材の利用促進も兼ね、センダンの利用拡大を進めています。

現在は、天然林を使っていますが、今後の供給体制を考え植林も行われています。冬に30cm程度の穴を掘り、肥料を入れて1m程度の苗を植えます。植林を実施したままでは幹曲がりがあるのでやすいため、直材を採るために「芽かき」（春に頂芽が出たらそれ以外の脇芽を全て取り除く作業。植栽後2年間（夏、春、夏の3回）が必要となります）。



2018年6月に福岡県大川市で、幼稚園、保育園の手で植栽されたセンダン



センダンを活用した家具（福岡県大川市「関家具大川本店」）